

様式第1の2（第1条の6関係）

危険物 仮貯蔵 承認申請書
仮取扱い

東海市消防長 殿		年 月 日	
申請者		住所 市町丁目番号 (電話 ***-***-****)	
氏名 株式会社		代表取締役 消防 太郎	
危険物の所有者、管理者又は占有者	住所	市町丁目番号 電話 *** (***) **** *	
	氏名	株式会社 代表取締役 消防 太郎	
仮貯蔵・仮取扱いの場所	所在地名称	東海市 町 番地の	
危険物の類、品名及び最大数量	第4類第2石油類（軽油） 3,000L		指定数量の倍数 3倍
	仮貯蔵・仮取扱いの方法 工事で使用するキュービクルタイプの発電機を設置する。		
仮貯蔵・仮取扱いの期間		年 月 日から 年 月 日まで 日間	
管理の状況 (消火設備の設置状況を含む)		標識を掲示して関係者以外の立入制限を徹底し、いたずら・盗難を防止する。作業前後に点検を行い、その結果を記録する。 10型粉末消火器を3本設置する。	
現場管理責任者	住所	市町丁目 緊急連絡先 *** (***) **** *	
	氏名	消防 一郎 【危険物取扱者免状： <input checked="" type="radio"/> （種類：乙種第4類）・無】	
仮貯蔵・仮取扱いの理由及び期間経過後の処理		夜間工事における照明や、電動工具の電源として使用する。 承認期間内での取扱いを徹底し、期日内に撤去する。	
その他必要事項		発電機付近の火気厳禁と危険物漏洩防止を徹底する。	
受付欄		経過欄	手数料欄
		承認年月日 承認番号	

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
 2 法人にあつては、その名称、代表者氏名及び主たる事務所の所在地を記入すること。
 3 案内図、配置図、平面図、構造図その他関係書類を添付すること。
 4 印の欄は、記入しないこと。

- 1 仮貯蔵、仮取扱いのいずれか一方しか行わない場合は、実施しない申請を二重線で抹消する。
- 2 申請日（申請書提出日）を記入する。
- 3 宛先は、「東海市消防長」と記入する。
- 4 「申請者」欄は、法人の場合は住所欄に主たる事務所の所在地、電話番号を、名前欄に法人の名称、代表者職氏名を記入し、押印は不要とする。
- 5 「危険物の所有者・管理者又は占有者」欄は、仮貯蔵又は仮取扱い（以下、「仮貯蔵等」という。）を行う危険物の所有者、管理者又は占有者（以下、「所有者等」という）を記入する。（通常、所有者等が申請者となるようにしてください。）
- 6 「仮貯蔵・仮取扱いの場所」欄は、仮貯蔵等を行う場所の所在地及び名称を記入する。
- 7 「危険物の類、品名、数量」欄は、類（例：第4類）、品名（例：第2石油類）、仮貯蔵等をする最大数量及び指定数量の倍数を記入する。（倍数がわからない場合は、消防本部予防課までお問い合わせください。）
- 8 「仮貯蔵・仮取扱いの方法」欄は、仮貯蔵等の方法及び安全対策（静電気対策、流出防止措置など）を具体的に記入する。
- 9 「仮貯蔵・仮取扱いの期間」欄は、開始日から起算して10日以内となるよう記入する。
- 10 「管理の状況（消火設備の設置状況を含む）」欄は、危険物の管理方法や監視・消火体制について具体的に記入する。
- 11 「現場管理責任者」欄は、現場管理責任者の住所、氏名及び緊急連絡先を記入する。
なお、危険物取扱者免状を有する場合は、危険物取扱者免状のコピー（表・裏両面）を添付する。
- 12 「仮貯蔵・仮取扱いの理由及び期間経過後の処理」欄は、仮貯蔵等を行う理由及び期間経過後の処理の方法を記入する。
- 13 「その他必要事項」欄は、上記以外で特記すべき事項があれば記入する。

各欄に記入しきれない場合は別紙にしてすることもできる。

指定数量の倍数 計算方法

類・品名が1種類の場合

$$\text{指定数量の倍数} = \frac{\text{最大数量}}{\text{指定数量}}$$

類・品名が2種類以上の場合

類・品名ごとに倍数を算出し、それらを合計する。

$$\text{指定数量の倍数} = \frac{\text{最大数量}}{\text{指定数量}} + \frac{\text{最大数量}}{\text{指定数量}} + \dots + \frac{\text{最大数量}}{\text{指定数量}}$$

第4類の指定数量

品名		指定数量[L]
特殊引火物		50
第1石油類	非水溶性	200
	水溶性	400
アルコール類		400
第2石油類	非水溶性	1,000
	水溶性	2,000
第3石油類	非水溶性	2,000
	水溶性	4,000
第4石油類		6,000
動植物油類		10,000

